

令和7年3月11日

保護者 様
(世帯数配布)

名古屋市立松原小学校長
松 本 和 芳

学校教育に関するアンケート 集計結果

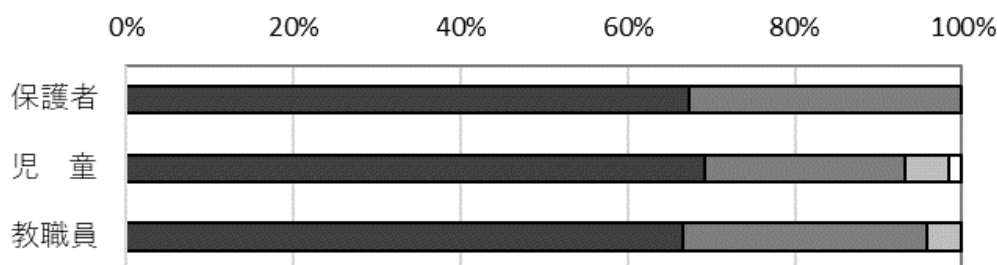
12月に実施しました「学校教育に関するアンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。保護者の他にも児童と本校教職員に同じ趣旨の設問でアンケートを行い、三者の結果を比較したものが下のグラフになります。

〈グラフについて〉
■：そう思う
■：どちらかと言えばそう思う
■：どちらかと言えばそう思わない
□：そう思わない

質問1 学校の楽しさ

保護者： 学校は、子どもたちが楽しく学校生活を送れるように努めている。

児 童： 学校は楽しい。

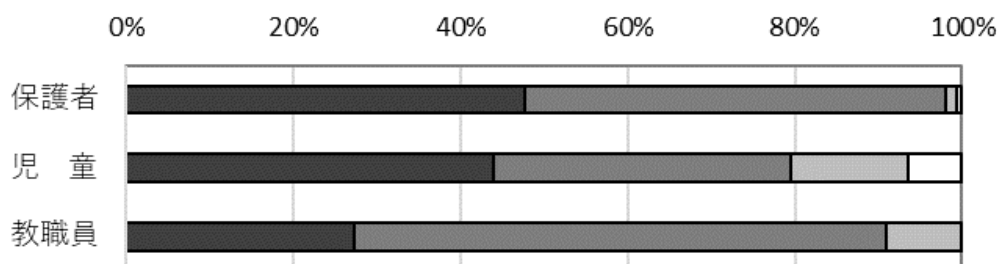


「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と感じている保護者は100%、児童は93%という結果でした。児童からは、1～6年生までが楽しめる全校企画をしたり、仲良しタイムを充実させたりしたいというアイデアが出ました。今後も児童が楽しく学校生活を送ることができるように、異学年交流をはじめとした他者との関わりを大切にしたり、子どもの主体性を伸ばしたりしていきたいと思います。来年度は、児童全員が楽しいと思える学校（児童の結果も100%）を目指します。

質問2 学校努力点

保護者： 学校は、授業や朝の会などで「子ども中心の学び」を意識して指導している。

児 童： 自分たちが中心になって、学習活動や朝の会に取り組んでいる。



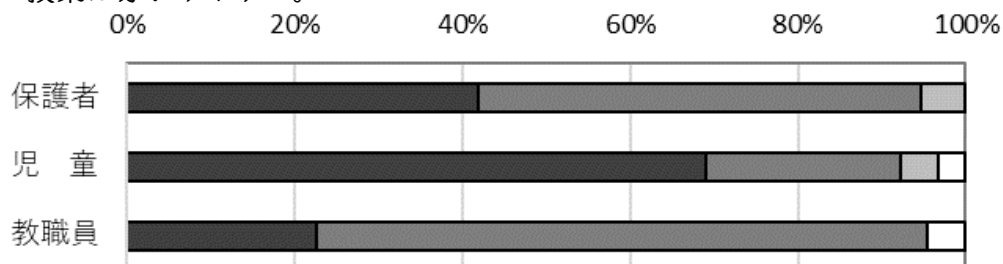
「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と感じている保護者が98%となり、昨年度より20ポイント以上増加する結果となりました。これは、学校努力点の取組が、学校行事や授業参観、本校HP等を通して保護者の皆様には伝わった結果だと考えます。一方で、児童は79%という結果にとどまり、「自分たちが中心になって活動している」と感じていない児童が一定数いることが課題となりました。

来年度も学校努力点では、引き続き「子ども中心の学び」を研究主題とし、「自分のペースで学ぶ」「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」松原っ子の育成を進めるとともに、「子ども中心の学び」を実感する授業を工夫していきたいと考えています。

質問3 学習指導

保護者： 学校は、分かりやすい授業を行い、子どもの学力向上に努めている。

児童： 授業は分かりやすい。



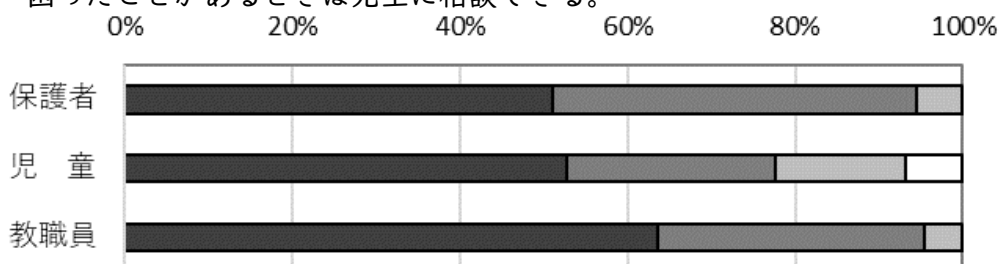
「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と感じている保護者は95%、児童は90%を越えています。これは、ナゴヤ学びのコンパスを意識した授業を展開していくとともに、業前のスキルタイム等で基礎学力の定着にも力を入れて指導してきた成果と考えます。

来年度も子どもたち一人一人の実態を捉え、子どもの「もっと学びたい」という気持ちを伸ばしていけるよう指導方法を工夫していきたいと思います。タブレット端末の活用もその一助になると考えますので、基礎学力の定着につながる活用方法について、職員で共有しながら進めていきます。

質問4 教育相談

保護者： 学校は、教育相談期間を含め、子どもが困ったらいつでも相談できるよう対応している。

児童： 困ったことがあるときは先生に相談できる。

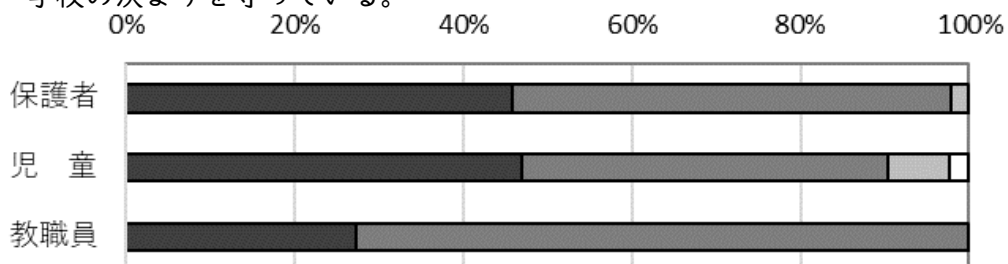


「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と考えている保護者は95%、児童は78%という結果になりました。スクールカウンセラーとの個別面談や、学級担任からの保護者連絡等が成果として表れている一方で、多様な悩みを抱えた児童に対し、今後もきめ細やかな支援を継続していくことが課題として残りました。今後も、定期的に行う学校生活アンケート等の結果から、まずは悩みを聞いたり、安心してできる声掛けをしたりします。さらには、職員間で情報を共有して児童への具体的な支援を考えるなど、一人一人に寄り添っていけるようにします。

質問5 生活指導

保護者： 学校は、子どもたちが学校の決まり(松原の約束)を守れるように努めている。

児童： 学校の決まりを守っている。

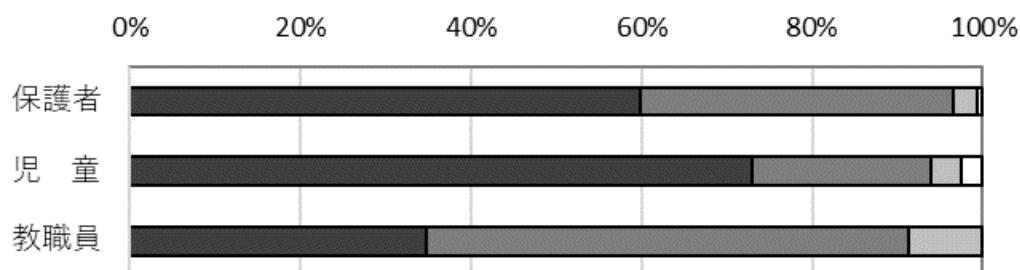


「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と感じている保護者は98%、児童は91%でしたが、児童は昨年度よりも5ポイント減少する結果となりました。

決まりを守ることは、学校生活を送る上でとても大切なことです。来年度も、年度始めに「松原の約束」「松原小 よい子の遊び場」等を基に、学校内での過ごし方や遊び方の決まり等を児童に指導します。また、決まりを守って行動することで、自分も周りの人も気持ちがよくなるということを児童一人一人が実感できるよう、発達段階に合わせて指導していきます。

質問6 安全指導

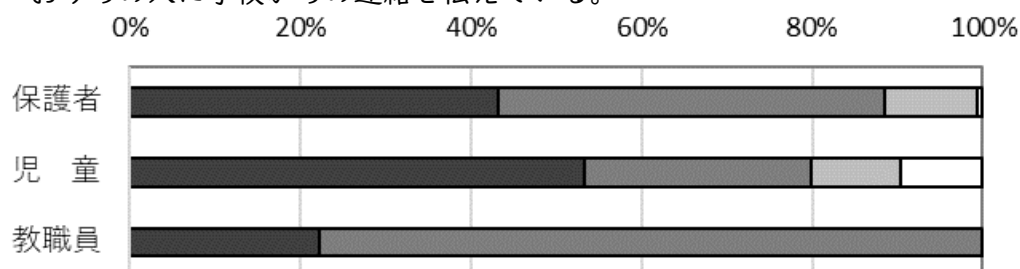
保護者： 学校は子どもたちが心身ともに健康に生活していくことができるように努めている。
また、避難訓練や防犯訓練、校門の管理などを進め、子どもの安全確保に努めている。
児童： 自分の健康を気に掛けている。また、避難訓練や防犯訓練で、自分の身の守り方を学んでいる。



「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と感じているのは、保護者も児童も 90%を越えており、昨年度と同様、高い結果となりました。児童の健康に関わる保健指導、給食に関わる栄養指導の他にも、日常生活の中での健康な過ごし方について、今後も児童とともに考えていきます。また、避難訓練や防犯訓練では、実状に即した形で訓練を行い、緊急時に「命を守る行動」を最優先に行動していけるようにします。保護者の皆様にも、遅刻・早退の際には必ず児童に付き添っていただくなど、児童の安全のためにご協力をお願いいたします。

質問7 家庭との連絡・連携

保護者： 学校は、各種たよりや懇談会、ホームページ等で、学校の様子を伝えるようにしている。
児童： おうちの人に学校からの連絡を伝えている。



「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と感じている保護者は 90%、児童は 80%という結果になりました。今年度は、学校から配信されるメールの数を必要最小限とし、「緊急性の高い情報」だけがメールで配信されるという認識を保護者の方々と共有できたことが成果と考えます。

児童の結果は今後の課題です。連絡帳の内容や学校からのお便りが確実にご家庭に伝わるよう、各学級で指導していきますので、ご家庭でも定期的に児童への声掛けをよろしくお願いいたします。

お寄せいただいた評価とご意見を参考に、児童や保護者・地域の期待に応える、よりよい教育を目指していきたいと思えます。

次頁に学校評議員の方からいただいたご意見を載せましたので、合わせてご覧ください。

2月19日（水）、児童・保護者・教職員のアンケート結果を基に、外部の学校評議員の方による学校関係者評価を行い、下のようなご意見をいただきました。

質問4について

- ・ 「そう思わない」と感じている児童が何人いるのかが気になった。悩みがある児童は、教師を含めて誰に相談できると感じているかを調査していただけると安心できる。
- ・ 不登校支援について、学校が教育支援センターを紹介したり、デキタスというデジタル教材を活用して家庭で学習することを勧めたりと、様々な指導・支援がなされていると知り、安心した。

質問5について

- ・ 登下校などの時に、自発的に挨拶ができるようになってほしい。そうすることで、地域との関係につながっていく。家庭でもしっかりと挨拶をするよう声掛けをしてほしい。
- ・ トイレのスリッパが整頓されていない階があった。日頃から児童に整頓を意識するよう、指導してほしい。
- ・ 学校は教育活動の場なので、基本的な生活習慣や行動などについては、小学校に入学するまでに、家庭でしっかりとしつけをしておいてほしい。

質問7について

- ・ 子どもが思春期であると、なかなか親と会話をしてくれず、学校での様子や学校からの連絡等を知ることができないのではないか。学校のHPで配布物一覧を載せていただけると伝わると思う。